

フレッシュトーク

新たな挑戦と 飯田への想い

花岡 莉香 (高73回)

日本女子大学 理学部 数物情報科学科 3年

●はなおか・りこ

飯田市立高陵中学校出身。大学では物理コース専攻。天文学から量子力学まで幅広く学習している。中高理科の教職免許取得に向けて勉強中。高校ではバドミントン班に所属。現在もサークルに所属しバドミントンを続けている。趣味は路上ライブ巡り。



私は大学入学を機に上京し、東京で一人暮らしをしている。生まれてから高校卒業までの18年間を伊那谷で過ごし、都会に憧れていた私にとって、東京での大学生活は毎日が刺激的である。入学した当初は、通勤ラッシュの満員電車さえ新鮮で楽しかった。東京には何でもある。テレビを見ていて美味しそうだと思ったお店にはすぐに行けるし、流行の最先端など気になったものはすぐに手に入る。

そんな、行動に移そうと思えば何でも出来る大都会東京で、私は長年の夢であった競技を始めた。フィギュア
なく足首、膝、腹筋、腕、全身の筋肉を使わないと綺麗にターンすることは出来ない。思っていた以上に身体の色々な部分に気を張ることが必要で最初は驚いた。練習の次の日には全身が筋肉痛になるし、転ぶと大きな痣もできる。それでも滑れば滑っただけ上達が見えて、日に日に出来るが増えていくので練習をすることが楽しい。今は振り付けしたばかりの新しいプログラムを自分のものにして冬の大会で入賞すること、そしてシットスピンを習得することを目標に練習に励んでいる。

憧れの街で生活をしていたら、自分の心は地元からどんどん離れていってしまうと思っていたが、実際は反対であった。飯田市はやりたいことも出来ないし、欲しいものもすぐに手に入らないことがある。交通の便もとても悪く、都会と比べて住みづらいから嫌だ、高校生までの私はそう思っていた。しかし地元を離れたことで飯田の良さが沢山見えてきて飯田を好きになることが出来た。今年の4月に飯沼諏訪神社の春季大祭に参加した経験が、その思いをさらに強くした。

飯沼諏訪神社のお祭りは、飯沼地域の3地区、北条・飯沼南・丹保の住民からなる三和会という会によって運営され、4月上旬の土曜日に宵祭り、日曜日に本日、と2日にわたって開催される。宵祭りでは3地区が分かれ

スケートだ。幼少期からフィギュアスケートを見るのが好きで、氷上で華麗に踊る選手たちにはずっと憧れていた。しかし下伊那にはリンクがない。一番近くても、岡谷のやまびこスケートの森まで行かないとスケートをする事が出来ない。そのため、フィギュアスケートをやりた
いと幼少期の私の願いは叶うことはなかった。

大学に入学し、新生活が始まって間もない頃、大学生からでもフィギュアスケートを始められるという情報を目にした。1年生の私は2月に行われた氷上練習体験に迷わず参加し、フィギュアスケート部の入部を決めた。多くの人はフィギュアスケートと聞くと浅田真央選手や羽生結弦選手のようなトリプルアクセル、4回転などの華やかな技を想像するだろう。しかし実際そのような技を身に付けられるのは幼少期から続けている人でも一握りだけで、大学で始めた人にとっては1回転ジャンプ全種類を身に付けるので精一杯だ。テレビで見ていた選手たちはとても簡単そうに滑って回って跳んでいるが、いざ自分がやってみると滑る向きを前向きから後ろ向きに変えるだけで一苦労だ。足元だけで



3月の大会で演技をする筆者

てそれぞれの地区の家をまわり、各家の前で獅子が舞う。本日は屋台のついた大獅子がその年の当番地区をまわり、飯沼諏訪神社に向かう。神社に到着すると地域の子どもたちも協力し飯沼諏訪神社の300段以上ある階段を大獅子がのぼるのだ。その後、境内で舞いを披露し奉納が行われる。新型コロナウイルスの影響で4年ぶりの通常開催となった今年のお祭りは以前に増して活気があったように感じた。1年に1度開催されるこのお祭りに合わせて、地元を離れて暮らす人も飯田市に戻ってくる。お祭りが無ければ関わることもないくらい年の離れた方々と2日間をともにして沢山の話をすることが出来る。このような繋がりは田舎だからこそその良さであり、今後も大切にしていきたいと強く思った。



飯沼諏訪神社の春季大祭 (一番右が筆者)

将来は、都会でしか経験することの出来なかったことを伝えつつ、一度地元を離れたからこそ気づいた飯田市の魅力を発信できるような教員になれるよう、残りの学生生活を過ごしていきたい。